

Windows ケータイ FOMA F1100と Exchangeでモバイル基盤をワンストップで提供

日本のケータイ文化に根ざした片手操作と、アプリケーション連携や高速データ通信機能を備え、ビジネスのスピードアップや効率化に貢献できるNTTドコモ Windows ケータイ FOMA F1100が発売された。開発元の富士通ではマイクロソフト「Exchange」などのグループウェア連携を中心に、強みである総合的なIT構築力を前面に押し出しワンストップ化したモバイル基盤の提供に力を入れる方針だ。

いつでもどこでもビジネスの現場でITを活用したいというニーズや、無線LAN内線システムのようなコミュニケーションシステムに企業の注目が集まっている。そのシステム構築では、モバイル端末の機能の優劣がユーザーの評価を左右する大きな要素となってきた。富士通の開発した「F1100」は考え抜かれた操作性と豊富な機能を備えており、様々なビジネスシーンで大きな力を発揮できる製品だ。

富士通ネットワークサービス事業本部ネットワークフロントセンターのモバイルプロジェクト推進室担当部長を務める西山聡一氏は「F1100」について次のように話す。「『F1100』は日本のケータイ文化とビジネス活用という2つの点を強く意識して開発しました。片手で操作のできるユーザーインターフェースは、スマートフォンなど、これまでのビジネス向けモバイル端末にはないユニークなものです。さらに、高速データ通信や豊富なセキュリティ機能、数多くの周辺機器と接続できる拡張性など、ビジネスで活用するために必要な

富士通のモバイル 総合ワンストップサービス



機能を搭載しています」

そこで、「F1100」の優位性や機能を整理してみた。

1) 使いやすい操作性

片手で操作のできるユーザーインターフェースの一例として、よく使う機能を登録してすぐに呼び出せるワンタッチキーを4つ備えている。例えば、無線LAN内線システム対応のモバイル端末の場合、「ピックアップ」、「保留」、「転送」などを実行するときは、複数回のボタン操作が必要だったが、「F1100」はワンタッチキーを使って1回で操作できる。また、「F1100」は厚さ16.9mm・重さ134gという一般の携帯電話並みの小型化・軽量化を実現しており、ハンディターミナルに比べ携帯性が優れている。

2) 高速データ通信に対応

NTTドコモの「FOMAハイスピード(HSDPA)」に対応し、エリア内であれば最大3.6Mbpsの高速パケット通信ができる。搭載する無線LANはIEEE 802.11a/b/gをサポートし、最大54Mbpsの高速通信が可能だ。WEP /



富士通 ネットワークサービス事業本部 ネットワークフロントセンター モバイルプロジェクト推進室 担当部長 西山聡一氏



マイクロソフト インフォルメーションワーカービジネス本部 ユニファイドコミュニケーショングループ シニアプロダクトマネージャ 齋藤義憲氏

WPA / WPA2などのセキュリティにも対応、既設の電波と干渉しにくいため、安定した通信環境で運用ができる。

3) 高いセキュリティ機能

富士通製携帯電話でポピュラーな指紋認証や開閉ロック、パスワードマネージャを搭載する他、「F1100」本体・microSD内の指定フォルダ内を暗号化ができるガードフォルダ機能を備えている。さらに、パターンデータの更新によって最新のウイルスにも対応できるウイルススキャン機能など、ビジネス利用に耐え得る豊富なセキュリティ機能を標準搭載する。

4) 拡張性

「F1100」はWindows Mobileを開発プラットフォームにしているために、Windowsのアプリケーションを資産として活かすことができる。また、Bluetoothに対応したバーコードリーダーやプリンターなどが接続可能であり、ハンディターミナルのような専用端末で行っていた検品や仕分けなどの業務にも活用できる。

また、オプション品のクレードルに充電

台を使った「F1100」ならではの便利な機能がある。クレードルに「F1100」を差し込むと、充電とPCとのデータの同期を同時に行うことができるのだ。他にも、無線LAN内線システムの利用時、クレードルに「F1100」を差し込んだ状態で電話の着信があっても、クレードルから「F1100」を外せばそのまま会話できるのも便利な機能だ。

「Exchange」と連携し オフラインでも使える

富士通ではこの「F1100」を提案素材にしたビジネス展開を3つあげている。1つがグループウェアと連携するモバイルネットワークソリューション、2つ目が社内の内線として活用する内外線デュアルソリューション、3つ目が営業支援、保守支援などの業務端末として活用するモバイル業務ソリューションだが、中でも、グループウェアとの連携は市場調査からもニーズが高い。

「F1100」は複数のグループウェアと連携できることが検証されているが、マイクロソフトの「Exchange」は「Outlook Mobile」というクライアントソフトを持つために、Webベースで常時通信する他の製品に比べ、一時的にデータを取り込み、同期をとりながらデータ更新をするオフライン運用ができる。その場合、仮に端末を落とすような事故があったとしても、データをリモートで削除ができる機能をもっており安全は確保されている。また「Exchange」と「F1100」間は専用の「Exchange ActiveSync」というセキュアな通信方法を使いアクセスするために安心して使える。

マイクロソフトのインフォルメーションワーカービジネス本部ユニファイドコミュニケーショングループに所属するシニアプロダクトマネージャの齋藤義憲氏は次のように話す。「日本の市場では『Exchange』のモバイル活用というニーズは非常に高いです。最近では特に

「F1100」と対応するアプリケーション画面



コンプライアンスの強化という意味でPCを社外に持ち出すことを禁止する企業が増えています。そのために、『F1100』のようなWindows Mobileを搭載した高機能なモバイル端末を活用する企業が増えてきています」

富士通の総合力を生かし ワンストップでサービス提案

「F1100」と「Exchange」。この2つの製品を活用した連携ソリューションが、富士通の有力な提案素材であることは判った。それに加え、富士通はモバイルネットワークサービスとして、FENICS「モバイルVPNサービス」を提供している。「F1100」への専用ソフトのインストールは必要なく、暗号化(IPSec)とID/パスワード認証を組み合わせて、企業イントラネットへのセキュアなアクセスを可能としている。

「一口にワンストップソリューションといっても、簡単にできるものではありません。『Exchange』の構築も含めネットワークに関係する様々なノウハウがあれば、システムとして動作しません。まして新規にすべての情報システムを一括して導入する企業は少ないのが現状です。既存システムを含めどのような順番でシステム導入するかといったスキルも必要になります。富士通はこうした経験・実績を数多くもっていま

す(西山担当部長) 同社ではF1100ソリューションを実際に体験してもらうために東京の浜松町に「デモンストレーション E1センター」を設けた。企業の担当者、意思決定者に製品の理解を深めてもらうことを目的としている。今後はマイクロソフトとも協力してセールスプロモーションなどの連携を強化し、「F1100」と「Exchange」の統合ソリューションを拡販していく計画だ。

「デモンストレーション E1センター」

場所: Enterprise Innovation Support Center(略称E1センター)
東京都港区浜松町1 18 16
住友浜松町ビル3階
お問い合わせ先
TEL: 03-6424-6263

デモ内容
モバイルネットワークソリューション
各種グループウェアとFENICS「モバイルVPN」を使ったオンラインデモ
内外線デュアルソリューション
IPテレフォニーシステムと連携したコミュニケーションサービスデモ
モバイル業務ソリューション
営業支援、保守支援等の業務利用イメージデモ

インターネットでもご紹介しております。
http://jp.fujitsu.com/showrooms/ei-center/

お問い合わせ先

富士通株式会社
サービスビジネス本部
ネットワークビジネス推進統括部
ネットワークサービス推進部
URL: http://fenics.fujitsu.com/mobile/
TEL: 03-6424-6263